

今週の
倫理

1/10(日) まいど! 倫理号です。今日は雨です。暑く感じるか、いよいよ冬がやって来る。私下のY社の社長の話し聴く事あり。素晴らしい社員教育をしている会社です。意=よくわかる方は是非読んでください。2013.11.9~11.15

私も両親が生きていたらお礼がなにか分りません。絶対喜んでくれると思っ。残念!
今週の倫理は奥が深い。有難うござります。 幸せ運ぶアホ一鳥

846号

幸せ運ぶアホ一鳥

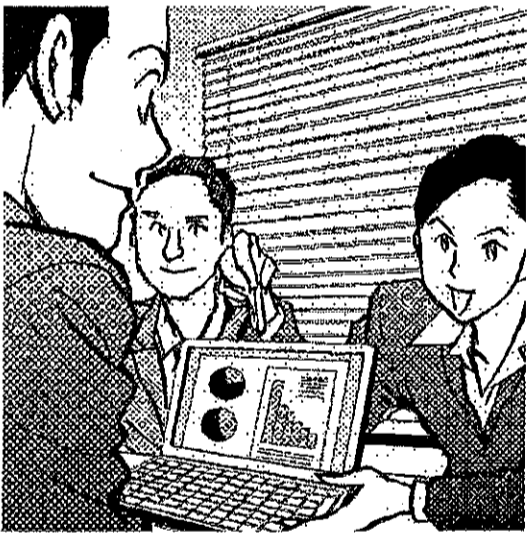
Y社では毎月、社員勉強会を開催しています。ある日の勉強会で、社員に「両親の足を洗う」という課題が出ました。

人生の中で、両親の足を洗う機会はなかなかありません。抵抗を持つ社員、どう切り出せばよいのか、戸惑う社員も少なくなかったそうです。社員の体験談をまとめた冊子の中から、感想の一部を紹介しましょう。

「今日、会社で足を洗う課題が出たのー」と私が言つと、まず母は、「えー! 何それ?」という表情。父はその状況をイメージしておかしくなったのか大笑いでした。その日はとりあえず足を洗うという事を伝えて終わりました。(後日) 夕飯を食べる前に「食べ終わったなら洗うからね」と伝えました。いざ洗うとなるとやはり恥ずかしくなっていました。

「母親」 母の照れ隠しなのか、ちよつと拗ねたよつな口調で「足を洗ってくれるよりも普段から素直になつてくれれば良いのに」とちよつと嫌味を言われながら始めました。そのうち母の職場の話や私が小さかった頃の話、姉の話など、思っていた以上に話が盛り上がりました。「立ち仕事してるからすぐく気持ちいい」など嬉しい言葉をかけてくれました。「呆けたりしなきゃ」という事はやってもらえないよね、普通は」と。

「父親」 足を洗い始めると眠りについてしまったので、感想を聞く事ができませんでしたが父の足は思っていたよりも大きく、ずっしりと重かったです。体が固つた足だと知ることができ



感謝を行動に移して
恩の意識を深める

絵・今谷 鉄柱

ました。次の日に感想を聞くと、「洗ってもらって足が軽くなったみたいだ」と喜んでくれました。感想「母の足を見て、私とそっくりだとびっくりしました。遺伝だなと感じました。母は「こそとばかりに、足よりも肩と腰が凝ってるのよ」と言い始めました。普段なら私は素直に話を聞かず「嫌だよ」と言ってしまうのですが、せつかくのいい雰囲気壊したくなかったので「今日はなんでもやりましょうー」と宣言し、マッサージをしました。」

「お婆ちゃん足の洗ってあげたら絶対喜ぶよ」と母に言われ、(母と祖母は)いつも喧嘩ばかりしますが、やはり心配なんだと感じることができて嬉しかったです。このような課題をただかなければやる事なかった、両親の足を洗うという事。毎日一緒にいる両親に感謝し、もっともつと大切にしようと思つことが出来ました。

*Mさん(女性 23歳)の感想より抜粋

この他にも、「やってよかった」という声が、社員から多く寄せられたそうです。倫理運動の創始者・丸山敏雄は、恩について、「恩はもともと無いものを外から張りつけたものではない。中にあるものを溶かすのであるから、自覚により、教育によって、限りもなく深まり高まるものである」と述べています。Y社の「両親の足を洗う」という実践は、宿題という形で躊躇する背中を押すとともに、心の内にある感謝を深め高める、またたかない「教育」だったと言えるでしょう。